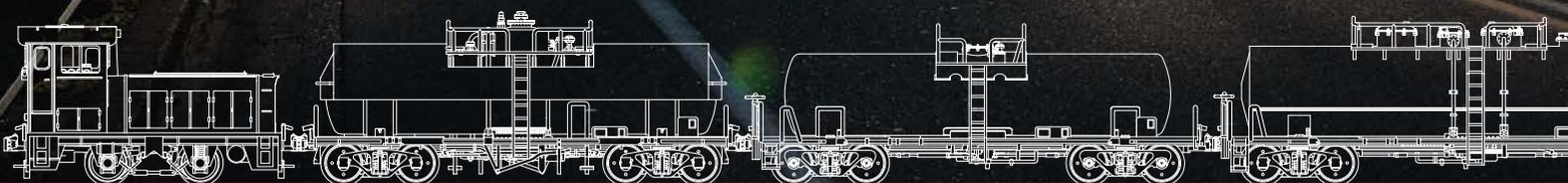


T356X

Official Guidebook



車扱貨物の楽しさ

～「新専貨」の提案～

貨車の楽しみ方は千差万別。

1両から好きなように繋げる気楽さがポイントです。

しかし、考証を楽しむなら

実際の編成に対する理解が必要なことも事実です。

T356Xでは、

長編成も短編成も楽しめる遊び方として

「新専貨」を提案します。

INDEX

車扱貨物の楽しさ ～「新専貨」の提案～	P.01
車扱貨物の歴史と「新専貨」	P.03
鉄道模型趣味における新専貨の魅力	P.04
T356Xの製品シリーズ	P.05
貨車シリーズPickUP	P.07
Tango/T-Coupler	P.10
製品リスト	P.11
よくあるご質問	P.17
Webサイトのご案内/おくづけ	P.18

※本カタログに掲載の写真は製品の作例・実車の写真を含みます。製品写真には線路・ベース車両・別売パーツなど製品に付属しないものが写っている場合があります。購入前に内容物について必ずご確認ください。



車扱貨物の歴史と「新専貨」

昨今、日本における鉄道貨物輸送の主役はコンテナである。荷主はコンテナを用意し、荷物を詰め、最寄の営業所に持ち込むことで列車輸送される。コンテナのなかった時代、荷主は貨車自体を借り、最寄の駅に呼び寄せて荷物を詰め、発送した。これを車扱という。これには車扱用の貨車や、貨車を目的地に振り分けるジャンクションとして大掛かりな操車場が必要だった。また、車扱及び操車場を用いた輸送形態をヤード系輸送と呼ぶ。

1984年、貨物の輸送効率化を推し進めていた国鉄は、非効率的なヤード系輸送を廃止し、コンテナ専用列車及び末端のトラック輸送、あるいは単一品目の専用列車による荷主への直行輸送へと転換を図った。しかし化成品を筆頭に、安全上の問題からコンテナやトラック輸送への代替が進まない輸送品目も依然存在したため、一部の車扱は存続となった。しかし操車場は消滅したため、全国に存在する臨海鉄道のヤードも活用することで、従来のヤード系輸送を代替した。

新専貨は、車扱を維持するために生まれた列車である。全国の拠点を渡り歩き、車扱用の貨車を増解結しながら全国の工場を結んだ。編成は化成品タンク車を始めとして、冷延コイルや鉄板、重油、石炭、セメントなど多岐に渡る専用貨車が連なった。その姿はヤード系輸送の全盛期を髣髴とさせる“デコボコ”な編成であり、ノスタルジックであると共にコンテナ専用列車とは一線を画す存在であった。

新専貨の時代も長くは続かなかった。車扱用の貨車は雑多であり、メンテナンスにコストがかかる上に更新も殆どされず、車齢も高くなりつつあった。21世紀に入ると、需要変動に弱く、速度が遅く、速達性もないなどネガティブな面が目立つようになり、JR貨物は遂に新専貨の廃止を決断した。車扱は数々の障壁を乗り越え、段階的にコンテナ化が進められた。その結果、2008年3月のダイヤ改正をもって新専貨は消滅した。

新専貨は潰えたが、化成品タンク車輸送は大牟田発のみ存続した。新専貨の面影を残す運用として人気を博したが、これも2009年12月をもってタンクコンテナへと転換され、日本における化学薬品タンク車輸送の歴史は幕を閉じた。最後の運用は大牟田-南延岡、タキ5450による液化塩素輸送であった。



鉄道模型趣味における新専貨の魅力

懐の深さ

編成に規則性はあるが完全な正解はないため、毎回違う編成が楽しめる。

長くても短くてもよいため、気分次第で編成を組み替えられる。



DE10重連で様々な化成品タンク車を牽く

Photo:UNLSTGS



DE10単機で1両の化成品タンク車(タキ29100)を牽く

Photo:UNLSTGS

貨車へのマニアックなこだわり

市販品に代替できないほど強い個性を持つもの、一見他形式と同じでも少し違うもの、など。

思い入れのある形態を自作するもよし、近似形式で雰囲気を楽しむもよし。



市販品改造ではなかなか難しい!?タキ10450(10453)

Photo:Sutakora



市販品のタキ7750と似ているかも。タキ4200(14291)

Photo:Sutakora

コンテナと車扱のコンビネーション

新専貨末期はコキが多く、タンク車などの車扱が少ない傾向にあった。

手持ちのコンテナに少しの車扱をアクセントで追加すれば、少しの手間で新専貨風に。



末期は車扱も少ないが、新専貨らしさを残す

Photo:UNLSTGS



車長は短くとも存在感がある(タキ7750)

Photo:UNLSTGS

新専貨の編成例—2001 北陸-甲信越発着列車から

3560 / 3561レ 新潟ター笠寺

富山近辺から発着する貨車が多く、扱いは神岡鉱山前、速星、伏木、青海が多い。硫酸、硝酸及びアンモニアは本列車の常連であり、特に本州で見られる銀タキの殆どは本列車から継走されていた。

日付/編成	列車番号/釜番/積荷	ご家庭の貨車で代用	完全再現を目指すなら
2001年3月13日	3561レ		
EF81 富山	32	製品有	-
タキ7750 電気化学工業	苛性ソーダ	製品有	-
タキ7750 電気化学工業	苛性ソーダ	製品有	-
タキ19000 電気化学工業	セメント	他所有者製品	T356X キット
タキ1900 電気化学工業	セメント	他所有者製品	T356X キット
タキ19000 電気化学工業	セメント	他所有者製品	T356X キット
タキ1900 電気化学工業	セメント	他所有者製品	T356X キット
タキ5750 三井物産	濃硫酸	タキ7750	T356X キット
タキ5750 神岡鉱業	濃硫酸	タキ7750	T356X キット
タキ5750 東京化成品	濃硫酸	タキ7750	T356X キット
タキ18600 日本陸運産業	液化アンモニア	製品有	-
タキ18600 日本陸運産業	液化アンモニア	製品有	-
タキ7500 日産化学工業	濃硝酸 甲種硝酸臨時専用	タキ3000 銀	T356X キット
タキ29100 日産化学工業	濃硝酸	タキ3000 銀	T356X キット
タキ7750 日産化学工業	苛性ソーダ	製品有	-
タキ7750 関西化成品輸送	苛性ソーダ	製品有	-
タキ10700 日本石油輸送	希硝酸 乙種硝酸臨時専用	タキ3000 銀	T356X キット
タキ10100 日本陸運産業	二硫化炭素	タキ3000	←改造

3880 / 3881レ 酒田—川崎貨物(EF64牽引区間)

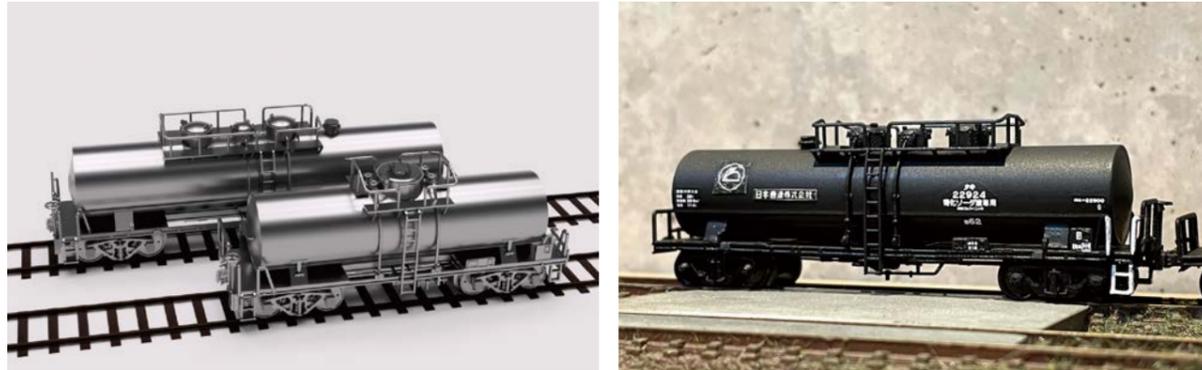
高崎操車場-新潟夕間はEF64牽引。ひとくちに3880/3881でも日や走行区間によって顔ぶれがガラリと変わる。車扱編成を従え、EF64重連で上越国境を越えるさまは新専貨屈指の名場面といえよう。

日付/編成	列車番号/釜番/積荷	ご家庭の貨車で代用	完全再現を目指すなら
2001年3月31日	3881レ		
EF64 高崎	1035	製品有	-
EF64 高崎	1034	製品有	-
タキ7250 内外輸送	メタノール	タキ35000	←改造
タキ7250 内外輸送	メタノール	タキ35000	←改造
タキ4000 三谷産業	濃硫酸	タキ7750	T356X キット
タキ3700 電気化学工業	酢酸	タキ3000	←改造
タキ3700 ダイセル	酢酸	タキ3000	←改造
タキ3700 ダイセル	酢酸	タキ3000	←改造
コキ104 JRF	コンテナ	製品有	-
コキ104 JRF	コンテナ	製品有	-
コキ104 JRF	コンテナ	製品有	-
コキ104 JRF	コンテナ	製品有	-
タキ5750 東邦亜鉛	濃硫酸及び発煙硫酸	タキ7750	T356X キット
タキ5750 東邦亜鉛	濃硫酸	タキ7750	T356X キット
タキ7750 呉羽化学工業	苛性ソーダ	製品有	-
タキ19500 日本石油輸送	スチレンモノマー	タキ35000	←改造

T356Xの製品シリーズ

貨車シリーズ(フルキット)

気合い入れて作った3Dプリント貨車シリーズです。DMM.Make様の3Dプリントサービスを活用しながらオンデマンドでキット販売しております。メインである化成品タンク車は、化学薬品の輸送効率と安全性を両立させるため、長い歴史を経て設計・運用上の様々な試行錯誤がありました。その内容が車両の形態差に表れ、目的は同じながらその達成への様々なアプローチが存在したことを感じさせてくれます。



市販品改造パーツセット

市販貨車の惜しいところを矯正したりバリエーションを展開したりするための部品です。フルキットより手軽に作れて、かつ効果的なものを目指しています。



●タキ35000台枠狭幅化キット



●貨車改造キット



●小型機関車パーツセット

Tango(オリジナル台車)

河合商会の貨車は車高がちょっと…という方に向けて、交換するだけで車高の下がる台車を製作しました。車高は勿論のこと、台車自体の幅も狭くすることで見栄えが実車に近づきます。現在はTR41C,41D,213C,225,211,216Bをリリースしていますが、トキ25000やタキ1900、各転用車などのためにTR209も作りたいと考えています。

従来はT-Truckという名前で販売しておりましたが、強度面での見直しと市販カップラーへの対応を目的に「Tango」と名前を変え、2022年より販売を開始しました。



スイッチャー



その他車両



ストラクチャ



Tカップラー(オリジナルカップラー)

「連結できるダミーカップラー」をコンセプトに、実車と同じ寸法のナックル、同じレベルの連結面間隔を実現すべく製作しました。強度的にはレンタルレイアウトでの長編成運転に耐えられるレベルで設計しています。市販カップラーより小さいため互換性がなく、調整も少し大変ですが、カップラー周りの印象は一般的なNゲージのそれからかなり改善しています。



貨車シリーズPickUP

硫酸車

全国的にみられた硫酸輸送用タンク車です。非常に古典的なタキ300から、化成品タンク車として最後の新製形式であるタキ29300までバラエティは多岐に渡るほか、他形式からの改造転入車も多く含まれます。中でも、タキ1700からの改造転入車であったタキ4581は新専貨輸送末期まで運用に入り、タンク車による硫酸輸送の最期を見届けました。また、タキ29300の最終ロットは2004年製であり、新専貨終焉まで僅か3年程度しか活躍の場が与えられなかったため悲運の形式として知られています。



タキ5750 W14タイプ <#1110>

硫酸車の最大手ともいえるメジャー形式であり、本作は特に一般的かつ後年まで長く活躍した形態です。



タキ6250 N4-Aタイプ <#1111>

神岡貨物

無水硫酸車として製作された形式ですが、後に濃硫酸及び発煙硫酸車へ改造され、00年代まで活躍しました。



タキ5750 H5タイプ <#1112>

神岡貨物

神岡や安中、沼垂、北沼など広範囲で運用されました。雪対策で踏板がエキスパンドメタルとなっています。



タキ5750 W24タイプ <#1113>

小坂貨物

弁周りにプロテクターが設けられ、濃硫酸車の中でも異彩を放っています。小坂貨物でも活躍しました。



タキ29300 W3タイプ <#1116>

小坂貨物

足尾駅に保存されている個体がモデルです。足尾を拠点として活躍したのち、晩年は小坂へ移りました。



タキ5750 K11タイプ <#1119>

神岡貨物

汽車製の末期形態で、帯金のないシンプルな外観です。北海道から移り、末期は神岡を拠点に活躍しました。

品番	品名	単位	キーワード			
#1104	タキ46000 F1-Aタイプ	1両	安中駅	福島臨海	神岡貨物	小坂貨物
#1105	タキ300 4564タイプ	1両			神岡貨物	
#1106	タキ300 4485タイプ	1両			神岡貨物	
#1107	タキ300 4581タイプ	1両	安中駅	福島臨海		
#1108	タキ4000 24038タイプ	1両			神岡貨物	
#1109	タキ4000 34042タイプ	1両	安中駅	福島臨海		

硝酸車

主に速星駅を拠点として活躍していた、日産化学工業の車を中心にモデル化しています。同社の硝酸車は非常に歴史が長く、古くはタム100、最晩年には日本の化成品タンク車として最後期(富士重製としては最後)のタキ10700、タキ29100最終ロットまで、貨車輸送へ非常に力を入れていたユーザといえます。タキ7450、10950、12050のような1形式1両の珍車、タキ7500、10453へのキャノピー追加改造車など個性豊かな顔ぶれも楽しいポイントです。



タキ29100 W3タイプ <#1202>

速星貨物 鹿島臨海

側面みのみのキャノピーが特徴的です。宇部港、大牟田、速星と拠点を移しながら00年代中盤まで活躍しました。



タキ7500 H5タイプ <#1204>

速星貨物 鹿島臨海

純アルミ製タンク体を持つ濃硝酸車です。後年、積荷の温度上昇を防ぐためのキャノピーが追加されました。



タキ10700 F4タイプ <#1205>

速星貨物 鹿島臨海

ステンレス製タンク体を持つ希硝酸専用車として製作され、本形態はドームありの側ブレーキとなります。



タキ8100 F4タイプ <#1208>

速星貨物

希硝酸専用車として製作された形式で、本形態は速星を拠点として浪速や名古屋港などに運用されました。



タキ12050 <#1210>

速星貨物

タキ1500を基に改造された一形式一両の甲種硝酸車です。のち希硝酸車となり90年代後半まで活躍しました。



タキ10450 H1タイプ <#1211>

速星貨物 鹿島臨海

濃硝酸専用車であるタキ7500の後継形式です。本形態は速星を起点に名古屋港などへ運用されていました。

品番	品名	単位	キーワード	
#1201	タキ29100 F2タイプ	1両	鹿島貨物	速星貨物
#1203	タキ29100 M2タイプ	1両	黒崎駅	三井三池
#1206	タキ10700 F5タイプ	1両	鹿島臨海	速星貨物
#1207	タキ7450	1両	鹿島臨海	速星貨物
#1209	タキ10950	1両		速星貨物
#1210	タキ12050	1両		速星貨物

貨車シリーズPickUP

タキ22900: 従来、青化ソーダ液は苛性ソーダ車の臨時専用種別変更で輸送されてきました。しかし昭和46年に毒物及び劇物取締法が改正されたため、本形式はこれに準拠した保安対策を実施した専用車として誕生しました。青化ソーダ液車としては唯一の専用形式で、平成になってからも増備されました。タキ26000や11800では荷役管のバルブ周りに後付けの鍵箱が設置されていますが、本形式では予め独立した3個のドームが設けられ、各々に鍵がつけられるようになっています。

タキ17900: 新興発塩尻行のアルミナ輸送向けタンク車です。日立製と日車製があり、それぞれメーカーごとの構造的差異が現れているほか、何故か歩み板の手摺が全く異なる点も興味深いところです。



タキ2600 22689 <#1115>

黒井駅

本形態は黒井駅を拠点とし、関東地方や中部地方へ運用されていました。



22900 N3タイプ-TR225 <#1607>

神奈川臨海 二本木貨物

本形式の中でも、特にTR225へ換装された個体を再現しています。



タキ26000-Bタイプ <#1610>

神奈川臨海 二本木貨物

亜硫酸ソーダ液、ニトロベンゼン、青化ソーダ液と専用種別を変更し、晩年は二本木-千鳥町を往復しました。



タキ11800 F3タイプ <#1611>

神奈川臨海 二本木貨物

潤滑油添加剤専用車として製作されたのち青化ソーダ液専用車に転用され、00年代中盤まで活躍しました。



タキ17900 N2タイプ <#1608>

新興駅 塩尻貨物

アルミナ専用車として製作され、新興-塩尻間の運用に就いていました。車端まで伸びた手すりが特徴的です。



タキ17900 H2タイプ <#1609>

新興駅 塩尻貨物

#1608とは製造メーカーが異なり、タンク体外周にリブのある姿が特徴的です。

品番	品名	単位	キーワード
#1114	タキ2600 12685	1両	青海駅
#1120	タキ2600 22696	1両	能町駅 二本木貨物
#1601	タキ5900 H1タイプ	1両	速星貨物
#1612	タキ23600 N1タイプ	1両	根岸駅 二本木貨物
#1613	タキ10850 TOMIX用パーツセット	1両分	名古屋臨海 三井三池
#1614	タキ19700 N2タイプ TOMIX用パーツセット	1両分	能町駅 二本木貨物

Tango/T-Coupler

Tango: Nゲージ貨車の外観をより実感的にするための台車です。お手持ちの貨車及び走行環境との親和性を考慮し、付属スペーサーで車高を調整可能。取付部は各社貨車の最大公約数的寸法に合わせ込んでおり、ボルスタ付きの車両であれば大抵の場合、無加工あるいは小加工で取り付け可能です。

T-COUPLER(Tカプラー): Nゲージ車両の外観をより実感的にするためのナックルカプラーです。徹底的なファインスケール化を達成することでカプラーによってスポイルされていたスケール感を改善します。



Tango TR41C <#0109>

貨車用として戦後のスタンダードとなったベッテンドルフ台車です。鋳鋼台枠に平軸受と板バネを組み合わせています。



Tango TR225 <#0111>

私有貨車用標準台車として開発され、主に台車中心間距離が8m以上の車両に使用されました。現在もホキ800等で現役です。



Tango TR216 <#0114>

高圧ガスタンク車の走行安定性改善のため製作されたTR95を源流とし、弓状の側梁とオイルダンパ取付角度が特徴的です。



Tカプラー 標準 10個入り <#0203>

貨車や客車、機関車など広範囲で使用できるタイプのTカプラーです。ファインスケールのナックルを持ち、連結面間隔も実車に近くなります。



Tカプラー EL用 標準 <#0206>

TOMIX製の電気機関車に対応したタイプのTカプラーです。スカートに切り欠きを目立たなくするように張り出し形状を追加しています。



Tカプラー 暖地DD13用 <#0212>

TOMIX製のDD13(品番2227以降)に対応したタイプのTカプラーです。暖地型ならではのすっきりした下回りを再現できます。

品番	品名	単位
#0110	Tango TR41D	1両分
#0112	Tango TR213C	1両分
#0113	Tango TR211	1両分
#0205	Tカプラー 標準 + Long	標準10個+ロング2個
#0208	Tカプラー EL用 標準 + Long	標準10個+ロング2個
#0213	Tカプラー 暖地DE10用	1両分

品番	品名	単位	キーワード			解説
#1101	タキ29300 F3タイプ	1両	安中駅	福島臨海	神岡貨物	本形態は特に神岡や安中向けを中心に、本州の広い範囲で運用された形態です。
#1102	タキ29300 F3-Aタイプ	1両	安中駅	福島臨海	神岡貨物	#1101を基に、保安対策として踏板が強化されたタイプです。
#1103	タキ46000 F1タイプ	1両	安中駅	福島臨海	神岡貨物 小坂貨物	タキ45000の余剰車を基に改造製作された形式です。種車が枯渇したのちタキ29300の製作に移行しました。
#1104	タキ46000 F1-Aタイプ	1両	安中駅	福島臨海	神岡貨物 小坂貨物	#1103を基に、保安対策として踏板が強化されたタイプです。
#1105	タキ300 4564タイプ	1両			神岡貨物	濃硫酸車として初のボギー車であり、45年に渡り製作されました。本形態は神岡を拠点に活躍しました。
#1106	タキ300 4485タイプ	1両			神岡貨物	90年代中盤ごろまで、神岡からの輸送に活躍した形態となります。#1106とはタンク体受の形状が異なります。
#1107	タキ300 4581タイプ	1両	安中駅	福島臨海		タキ1700からの改造車であり、票差しなどに特徴がある形態です。安中を拠点に2006年ごろまで活躍しました。
#1108	タキ4000 24038タイプ	1両			神岡貨物	濃硫酸及び発煙硫酸の専用車です。最初期車は戦前製であり、タキ300と同様に長い歴史を持つ形式です。
#1109	タキ4000 34042タイプ	1両	安中駅	福島臨海		本形態は#1108とドームの処理などが異なります。長きに渡る生産の中で数々の形態差が生まれました。
#1110	タキ5750 W14タイプ	1両				硫酸車の最大手ともいえるメジャー形式であり、本作は特に一般的かつ後年まで長く活躍した形態です。
#1111	タキ6250 N4-Aタイプ	1両			神岡貨物	無水硫酸車として製作された形式ですが、後に濃硫酸及び発煙硫酸車へ改造され、00年代まで活躍しました。
#1112	タキ5750 H5タイプ	1両			神岡貨物	神岡や安中、沼垂、北沼など広範囲で運用されました。雪対策で踏板がエキスパンドメタルとなっています。
#1113	タキ5750 W24タイプ	1両			小坂貨物	弁回りにプロテクターが設けられ、濃硫酸車の中でも異彩を放っています。小坂貨物でも活躍しました。
#1114	タキ2600 12685	1両	青海駅			苛性ソーダ専用車として多くの形態が生まれた形式です。本形態は青海を拠点として運用されました。
#1115	タキ2600 22689	1両	黒井駅			本形態は黒井駅を拠点とし、関東地方や中部地方へ運用されていました。
#1116	タキ29300 W3タイプ	1両			小坂貨物	足尾駅に保存されている個体がモデルです。足尾を拠点として活躍したのち、晩年は小坂へ移りました。
#1117	タキ5750 K2タイプ	1両			小坂貨物	小坂を拠点に、主に船川港へ運用されていた形態です。90年代まで小坂貨物の主力として活躍しました。
#1118	タキ5750 K5タイプ	1両	太郎代駅	新潟臨海		太郎代駅を拠点に運用されていた形態です。汽車製の5750は車端に設けられた側ブレーキが特徴です。
#1119	タキ5750 K11タイプ	1両			神岡貨物	汽車製の末期形態で、帯金のないシンプルな外観です。北海道から移り、末期は神岡を拠点に活躍しました。
#1120	タキ2600 22696	1両	能町駅		二本木貨物	二本木や能町を拠点に、全国へ運用されていた形態です。前後非対称の手すりが特徴的です。
#1121	タキ5750 F28タイプ	1両			神岡貨物	100ロット以上製作された本形式の中でも最末期にあたる形態であり、手ブレーキが採用されています。
#1122	タキ29300 F1タイプ	1両			神岡貨物	タキ5750の最後期に登場した手ブレーキ仕様を基に、保安対策版として製作されました。
#1124	タキ29300 F3タイプ TOMIX用パーツセット	1両分			神岡貨物	TOMIXのタキ29300をベースに、F3タイプへ改造できるパーツセットです。
#1201	タキ29100 F2タイプ	1両		鹿島臨海	速星貨物	富士重工製として最末期の化成品タンク車となります。すっきりとしたキャノピーの形状が特徴です。
#1202	タキ29100 W3タイプ	1両		鹿島臨海	速星貨物	側面のみキャノピーが特徴的です。宇部、大牟田、速星と拠点を移しながら00年代中盤まで活躍しました。
#1203	タキ29100 M2タイプ	1両	黒崎駅	三井三池		日本唯一のアルミクラッド製タンク体を持ち、純アルミ製タンク体の「連結注意」を克服した濃硝酸車です。
#1204	タキ7500 H5タイプ	1両		鹿島臨海	速星貨物	純アルミ製タンク体を持つ濃硝酸車です。後年、積荷の温度上昇を防ぐためのキャノピーが追加されました。
#1205	タキ10700 F4タイプ	1両		鹿島臨海	速星貨物	ステンレス製タンク体を持つ希硝酸専用車として製作され、本形態はドームありの側ブレーキとなります。
#1206	タキ10700 F5タイプ	1両		鹿島臨海	速星貨物	平成6年度に増備された最後期の手ブレーキタイプで、ドームレスタンクのすっきりした外観が特徴です。
#1207	タキ7450	1両		鹿島臨海	速星貨物	タキ7500に類似した設計ながら、タンク体全周にキセを装備した一形式一両の車両です。
#1208	タキ8100 F4タイプ	1両			速星貨物	希硝酸専用車として製作された形式で、本形態は速星を拠点として浪速や名古屋港などに運用されました。
#1209	タキ10950	1両			速星貨物	一形式一両として製作され、甲種硝酸から希硝酸に専用種別変更されたのち00年代前半まで活躍しました。

品番	品名	単位	キーワード	解説
#1210	タキ12050	1両	速星貨物	タキ1500を基に改造された一形式一両の甲種硝酸車です。のち希硝酸車となり90年代後半まで活躍しました。
#1211	タキ10450 H1タイプ	1両	鹿島臨海 速星貨物	濃硝酸専用車であるタキ7500の後継形式です。本形態は速星を起点に浪速などへ運用されていました。
#1212	タキ7750 7777	1両	能町駅 二本木貨物	タキ7750のうち初期のロットにあたる、側梁レスの形態です。二本木や能町を拠点に00年代まで活躍しました。
#1223	タキ10450 H1-Aタイプ	1両	鹿島臨海 速星貨物	#1212をベースに遮熱用のキャノピーが追加された、1両のみの形態です。
#1401	タキ35000 K商会用パーツセット	1両分		K商会製タキ35000の幅広台枠を本製品に交換することで、実車に近いプロポーションを実現します。
#1501	タキ14700 N5タイプ	1両	3363レ	日本唯一の液化酸化エチレン専用車として製作されました。3362-3363レに組み込まれた姿が有名でした。
#1502	タキ14700 N8タイプ	1両	3363レ	平成増備車の一員で、すっきりしたキセが特徴的です。本形式は浮島町一東港の運用に就いていました。
#1503	タキ19550 N1タイプ	1両	3363レ	長いタンク体を持つ、国内唯一の液化イソブチレン専用車です。伏木-浮島町の運用に就いていました。
#1601	タキ5900 H1タイプ	1両	速星貨物	クロルスルホン酸専用車として製作され、本形態は速星を拠点に00年代前半まで浪速などへ運用されました。
#1602	タキ20500 N1(20501,20502) マイクロ用パーツセット	1両分		マイクロ製タキ35000の幅広台枠を本製品に交換することで、実車に近いプロポーションを実現します。
#1603	タキ20500 N2(20514,20515) マイクロ用パーツセット	1両分	秋田臨海 京葉臨海	晩年は全体が灰色に塗装され、異彩を放ちました。前川-秋田港の石炭酸輸送に従事しました。
#1604	タキ23800 F5(23820,23821) マイクロ用パーツセット	1両分	神奈川臨海	本形態はタキ24400からの改造編入車で、千鳥町から運用されている姿を見ることができました。
#1605	タキ23800 N1(23800,23801) マイクロ用パーツセット	1両分		本形式のトップナンバーである23800は奥野矢浜-秋田港間のラテックス輸送に00年代中盤まで従事しました。
#1606	タキ22900 N3タイプ	1両	神奈川臨海 二本木貨物	日本で唯一、当初より青化ソーダ液専用車として製作されました。屋上の弁プロテクターが特徴的です。
#1607	タキ22900 N3タイプ-TR225	1両	神奈川臨海 二本木貨物	本形式の中でも、特にTR225へ換装された個体を再現しています。
#1608	タキ17900 N2タイプ	1両	新興駅 塩尻貨物	アルミ専用車として製作され、新興-塩尻間の運用に就いていました。車端まで伸びた手すりの特徴的です。
#1609	タキ17900 H2タイプ	1両	新興駅 塩尻貨物	#1609とは製造メーカーが異なり、タンク体外周にリブのある姿が特徴的です。
#1610	タキ26000 -Bタイプ	1両	二本木貨物	亜硫酸ソーダ液、ニトロベンゼン、青化ソーダ液と専用種別を変更し、晩年は二本木-千鳥町を往復しました。
#1611	タキ11800 F3タイプ	1両	神奈川臨海 二本木貨物	潤滑油添加剤専用車として製作されたのち青化ソーダ液専用車に転用され、00年代中盤まで活躍しました。
#1612	タキ23600 N1タイプ	1両	根岸駅 二本木貨物	液体硫黄専用車として製作され、本形態は根岸-二本木間の運用に就いていました。
#1613	タキ10850 TOMIX用パーツセット	1両分	名古屋臨海 三井三池	日本唯一のニトロシル硫酸溶液専用車として製作され、汐見町-大牟田間を往復していました。
#1614	タキ19700 N2タイプ TOMIX用パーツセット	1両分	能町駅 二本木貨物	希硫酸専用車として製作され、二本木-能町間の廃硫酸輸送等に従事していました。00年代中盤まで活躍しました。
#1701	タキ1900 H1タイプ	1両	青海駅 樽見鉄道	外周のリブと山なりのランボードが特徴的な形態です。00年代中盤まで青海を拠点に運用されました。
#1702	タキ1900 H1-Aタイプ	1両	青海駅 樽見鉄道	#1701から票差しの位置が変更された形態です。全体の中で施工された個体はおよそ半数と思われます。
#1703	タキ1900 H4タイプ	1両	青海駅 樽見鉄道	#1701からタンク体受の形状が変更された形態です。ロット違いによる形態差を余すことなく再現しました。
#1704	タキ1900 H3タイプ	1両	青海駅 樽見鉄道	#1703から票差しの位置が変更された形態です。
#1705	タキ19000 H5タイプ	1両	青海駅 樽見鉄道	タキ1900の後継形式であり、主にタンク体材質が異なります。本作ではエアスライド配管の違いを再現しました。
#8001	KMトロッコ 3両セット			タンク車を改造してお客さんを乗せる、という構想を具体化した伝説の車両です。

製品リスト〈その他〉

品番	品名	単位
#0101	TR41C 5両分10セット カプラー付き	5両分
#0102	TR41C 5両分10セット 台車のみ	5両分
#0103	TR41D 5両分10セット カプラー付き	5両分
#0104	TR41D 5両分10セット 台車のみ	5両分
#0105	【T-TRUCK】TR225 10セット カプラー付	5両分
#0106	【T-TRUCK】TR213C 10セット カプラー付	5両分
#0107	【T-TRUCK】TR211 10セット カプラー付	5両分
#0108	【T-TRUCK】TR216 10セット カプラー付	5両分
#0109	Tango TR41C	1両分
#0110	Tango TR41D	1両分
#0111	Tango TR225	1両分
#0112	Tango TR213C	1両分
#0113	Tango TR211	1両分
#0114	Tango TR216	1両分
#0201	【T-COUPLER】カプラーポケット対応ナックルカプラー V1.1	120個
#0202	【T-COUPLER】カプラーポケット対応ナックルカプラー V1.1	60個
#0203	Tカプラー 標準 10個入り	10個
#0204	Tカプラー Long	10個
#0205	Tカプラー 標準 + Long	標準10個+ロング2個
#0206	Tカプラー EL用 標準	10個
#0207	Tカプラー EL用 Long	10個
#0208	Tカプラー EL用 標準 + Long	標準8個+ロング2個
#0209	Tカプラー DL用 標準	10個
#0210	Tカプラー DL用 Long	10個
#0211	Tカプラー DL用 標準 + Long	標準8個+ロング2個
#0212	Tカプラー 暖地DD13用	1両分
#0213	Tカプラー 暖地DE10用	1両分
#0301	パーツセット 小型機関車用	1両分

製品リスト〈その他／貨車セット〉

価格は公式サイト内の販売ページからご覧ください

品番	品名	単位
#2001	機関車 H25t (丸屋根)	1両
#2002	機関車 H25t (丸屋根) グリル付	1両
#2003	機関車 H25t (角屋根)	1両
#2004	DL17(有田川鉄道公園)	1両
#3001	KM気動車 タイプ101 V1.0	1両
#6001	省線門 タイプ1	1セット
#6002	省線門 タイプ2	1セット

〈セット販売〉

品番	品名	収録アイテム
#7101	タキ29300 3両セット	#1101 #1102
#7102	タキ29300 5両セット	#1101 #1102
#7103	タキ46000 3両セット	#1103 #1104
#7104	タキ46000 5両セット	#1103 #1104
#7105	タキ300 3両セット	#1105 #1106 #1107
#7106	タキ4000 2両セット	#1108 #1109
#7107	タキ300&4000 3両セット	#1107 #1108 #1109
#7108	タキ5750 3両セット	#1110
#7109	タキ5750 5両セット	#1110
#7110	タキ5750 2両セット	#1112 #1113
#7111	タキ2600 2両セット	#1114 #1115
#7112	タキ29300 3両セット	#1116
#7201	タキ10700 2両セット	#1205 #1206
#7202	タキ8100 2両セット	#1208
#7601	タキ22900 2両セット	#1606 #1607

よくあるご質問

3Dプリントキットはどうやって作るの？

Youtube 動画と Twitter モーメントの両方で解説しています。宜しければご参考になさってください。



Youtube動画 ▶▶▶

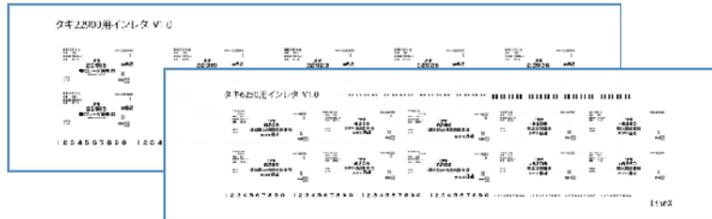


Twitterモーメント ▶▶▶
(アカウントをお持ちでなくても見られます)



インレタはどうやって作るの？

インレタについては、公式サイトサポートページでデータを公開しています。
特記なき限り、アドマさん (<http://www2.bbweb-arena.com/adoma/>) のアウトレットインレタで発注してください。



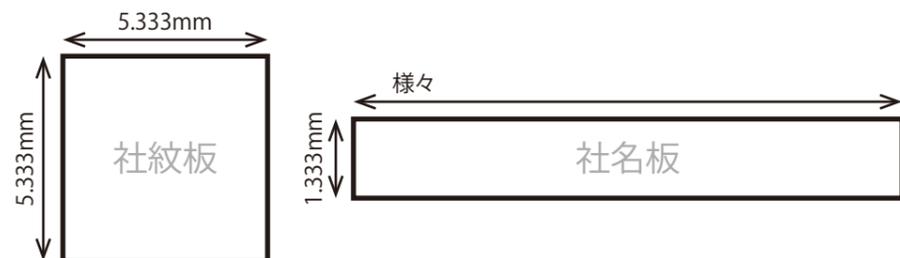
T356X公式サイト
サポートページ ▶▶▶



社紋板や社名板はどうやって作るの？

社紋については、インターネット上で画像検索してカラーコピーする方法や、手書きで描いたものを縮小印刷する方法などがあります。T356Xでは一般的なコピー用紙に印刷したものを切り抜き、断面を車体色にした上でボンド等で貼り付ける方法をおすすめします。

Nゲージの場合、標準的な社紋板と社名板の寸法は下図の通りとなります。
荷主の要望や貨車の移籍など様々な理由で標準外の寸法となる場合もあるため、実車の写真を観察の上、イメージに合うサイズで作成していただくのが良いと思います。



製品の詳細な内容と最新の情報はWebから!

T356X公式サイト



<http://T356X.COM>

Webサイトでは貨車の楽しみ方、3Dプリントキットの作り方など貨車模型を楽しむための情報や実車資料・映像などを掲載しています。

DMM.make

DMM.makeにて
3Dプリントキットを公開中です



<https://make.dmm.com/shop/151412/>

BOOTH

一部の製品は
BOOTHでもお買い求めいただけます



<https://t356x.booth.pm/>

T356X Official Guidebook

T356X 総合カタログVol.1
2022年12月発行

Publisher
T356X
Picture
T356X, UNLSGTS, Sutakora
Editorial Design
UNLSGTS



